



平成 20 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況 (非連結)

平成 19 年 7 月 31 日

上場会社名 株式会社 焼肉屋さかい 上場取引所 J Q  
 コード番号 7622 URL <http://www.yakiniku.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 杉本 英雄  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長 (氏名) 乗松 康弘 TEL (058) 380-2226

(百万円未満切捨て)

1. 平成 20 年 3 月期第 1 四半期の業績 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 6 月 30 日)

(1) 経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20 年 3 月期第 1 四半期	2,864	(△17.5)	62	(245.1)	23	(—)	26	(△72.0)
19 年 3 月期第 1 四半期	3,472	(△1.1)	18	(—)	△0	(—)	96	(—)
19 年 3 月期	12,317	(△12.3)	△131	(—)	△248	(—)	△777	(—)

	1 株当たり四半期 (当期)純利益		潜在株式調整後 1 株当たり四半期 (当期)純利益	
	円	銭	円	銭
20 年 3 月期第 1 四半期	1	32	—	—
19 年 3 月期第 1 四半期	17	63	8	85
19 年 3 月期	△47	92	—	—

- (注) 1. 前会計年度は当期純損失のため、潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益は記載しておりません。  
 2. 当第 1 四半期会計期間における潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1 株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円	銭	
20 年 3 月期第 1 四半期	7,397	883			11.9	43	20	
19 年 3 月期第 1 四半期	8,538	△1,267			△14.8	△232	71	
19 年 3 月期	8,438	855			10.1	41	84	

2. 配当の状況

	1 株当たり配当金	
	第 1 四半期末	
(基準日)		
19 年 3 月期第 1 四半期	円	銭
20 年 3 月期第 1 四半期	—	—

3. 平成 20 年 3 月期の業績予想 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(%表示は、対前期、中間期は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
中間期	5,993	▲13.2	207	—	135	—	76	—	3	72
通期	10,576	▲14.1	490	—	409	—	161	—	7	90

(注) 詳細につきましては、定性的情報・財務諸表等 3. 業績予想の定性的情報および平成 19 年 7 月 31 日発表の「平成 20 年 3 月期中間及び通期の業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

4. その他

(1) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有

(2) 最近事業年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有

(注) 詳細は、3～4 ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください

【定性的情報・財務諸表等】

1. 経営成績に関する定性的情報

当第 1 四半期におけるわが国経済は、好調な企業収益を背景とした設備投資に支えられ、景気については緩やかながらも拡大基調にあります。

当四半期における売上高としましては、前期中に閉店等による 28 店舗（直営店 12、F C 店 16）の減少、また前年同期においては「生ビール 5 円販売」の大々的なキャンペーンを行っていたことから、主業態である焼肉業態の既存店ベースの総売上高が前年同期比で 97.0%であったことが主な売上高の減少の要因であります。

経常利益におきましては、平成 19 年 5 月 28 日完了した公開買付の結果、株式会社ジー・コミュニケーション（名古屋市北区）が当社の親会社となったことで、親会社グループ全体のスケールメリットの共有やコスト構造を見直したことで、黒字転換し前年同期比で 23 百万円の増益となりました。

四半期純利益におきましては、前年同期に役員退職慰労金の辞退により当該退職慰労金に対する引当金の戻し入れが特別利益として計上されていたため、当四半期は前年同期比△72.0%となっておりますが、経常利益とともに当四半期の業績計画を上回る実績となりました。

その結果、当社における当第 1 四半期は、売上高 2,864 百万円（前年同期比△17.5%）、経常利益 23 百万円（前年同期比 23 百万円増）、四半期純利益 26 百万円（前年同期比△72.0%）となりました。

なお、当期の業績見通しにつきましては、親会社が株式会社ジー・コミュニケーションに変わったことにより、同社および同社グループのノウハウを取り入れ、また同社グループのスケールメリットを共有することが可能になりますので、当期の業績計画の修正をいたします。詳細につきましては 3. 業績予想の定性的情報および平成 19 年 7 月 31 日発表の「平成 20 年 3 月期中間及び通期の業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 財政状態に関する定性的情報

総資産は前年同期に比べ 11 億 40 百万円減少し、73 億 97 百万円となりました。これは主に前期中に進めておりました事務所等の資産売却や 19 年 3 月期決算での減損損失 4 億 57 百万円の計上などによる固定資産の減少および有利子負債の減少によるものであります。

純資産に関しましては、当社第 8 回新株予約権に基づき平成 18 年 7 月 27 日に行なわれた 30 億円の権利行使の結果、前期中に債務超過を解消し、また当四半期におきまして純利益 26 百万円の計上により、前年同期より 21 億 50 百万円の増加となっております。

3. 業績予想に関する定性的情報

平成 19 年 5 月 28 日完了の当社株式の公開買付の結果をうけ、平成 19 年 5 月 8 日の決算発表時に公表しております業績予想を見直しました。

公開買付の完了に伴い、株式会社ジー・コミュニケーション（名古屋市北区）が当社の親会社となり、また当社も株式会社ジー・コミュニケーショングループとして、グループのノウハウやスケールメリットを共有することが可能になり、店舗運営の効率化やコスト構造の見直しを行いました。

店舗運営におきましては、販売促進戦略を見直すことに対応するため、売上高の表示を総売上高から売上値引として控除した純売上高に変更いたします。またフランチャイズ向け売上高につきまして、F C 加盟店との取引形態の一部において、F C 加盟店の負担を軽減する形に変更を行います。

その見通しとしまして、売上高につきましては当初の業績予想より、1,404 百万円減収の 10,576 百万円といたしました。

各コスト構造におきましても見直しを行い、従来の直営店管理機能およびフランチャイズ店管理機能をはじめとする本部コストの圧縮を図ります。また仕入・物流面でも株式会社ジー・コミュニケーショングループのスケールメリットおよびネットワークを活用した経費の削減を行っていくとともに、保有資産の活用について、長期的な視野で資産売却、滅失などを検討した結果、経常利益は 344 百万円増益の 409 百万円、当期純利益については、156 百万円増益の 161 百万円になる見通しであります。

(注) 業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としており、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる可能性があります。また詳細につきましては平成 19 年 7 月 31 日発表の「平成 20 年 3 月期中間及び通期の業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

[参 考] 平成 19 年 5 月 8 日発表  
平成 20 年 3 月期の業績予想 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
中 間 期	6,080	60	30
通 期	11,980	65	5

#### 4. その他

##### (1) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

影響額の僅少なものについて、一部簡便な方法を採用しております。

##### (2) 最近事業年度からの会計処理の方法の変更

###### ①減価償却方法の変更

当事業年度より法人税法の改正に伴い、平成 19 年 4 月 1 日以降取得する有形固定資産については、改正法人税法に規定する減価償却費を計上しております。

この変更に伴う営業利益、経常利益、税引前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

###### ②寮社宅収入の計上方法の変更

従来、寮・社宅家賃の従業員負担分につきましては営業外収益に、これらに対応する費用は販売費及び一般管理費に計上しておりましたが、費用負担の実態を明確にし、損益区分をより適正にするため、当事業年度より「販売費及び一般管理費」から控除する方法に変更いたしました。この変更に伴い、従来の方法によった場合と比較し、販売費及び一般管理費は 20,718 千円減少し、営業利益は同額増加しておりますが、経常利益及び税引前四半期純利益に与える影響はありません。

###### ③販促券の計上方法の変更

従来、販促券につきましては、販売促進費に計上しておりましたが、販売単価の長期間にわたる継続的下落の結果、従来は一時的な販売促進の性格を持っていた当該販売促進費が恒常化し、売上値引としての性格がより強くなってきたため、当事業年度より販売促進費ではなく、売上高から控除する方法に変更いたしました。

この変更に伴い、従来の方法によった場合と比較し、売上高、売上総利益及び販売費及び一般管理費は、それぞれ 102,444 千円減少しておりますが、営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益に与える影響はありません。

5. (要約) 四半期財務諸表

(1) (要約) 四半期貸借対照表

(単位：千円、%)

科 目	前年同四半期 (平成19年3月期 第1四半期末)	当四半期 (平成20年3月期 第1四半期末)	増 減		(参考) 平成19年3月期末
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
<b>(資産の部)</b>					
<b>I 流動資産</b>					
1 現金及び預金	1,194,170	1,255,736	61,565		2,121,911
2 売掛金	570,754	351,474	△219,279		467,667
3 たな卸資産	113,320	87,836	△25,484		98,699
4 前払費用	142,479	215,729	73,250		209,217
5 その他	175,648	52,005	△123,643		104,145
貸倒引当金	△267,794	△55,742	212,052		△58,458
流動資産合計	1,928,580	1,907,040	△21,539	△1.1	2,943,182
<b>II 固定資産</b>					
1 有形固定資産					
(1) 建物	2,058,853	1,571,182	△487,670		1,558,934
(2) 構築物	260,790	195,963	△64,826		193,742
(3) 土地	2,198,895	2,032,024	△166,871		2,032,024
(4) その他	144,477	116,316	△28,161		111,480
有形固定資産合計	4,663,016	3,915,486	△747,529	△16.0	3,896,181
2 無形固定資産	123,487	99,398	△24,089	△19.5	97,934
3 投資その他の資産					
(1) 差入保証金	1,337,642	1,267,911	△69,731		1,275,421
(2) その他	1,004,862	630,346	△374,516		971,784
貸倒引当金	△519,309	△422,566	96,743		△745,650
投資その他の資産合計	1,823,196	1,475,691	△347,504	△19.1	1,501,556
固定資産合計	6,609,700	5,490,576	△1,119,123	△16.9	5,495,673
資産合計	8,538,280	7,397,617	△1,140,663	△13.4	8,438,855

(単位：千円、%)

科 目	前年同四半期 (平成19年3月期 第1四半期末)	当四半期 (平成20年3月期 第1四半期末)	増 減		(参考) 平成19年3月期末
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
<b>(負債の部)</b>					
<b>I 流動負債</b>					
1 買掛金	502,910	385,974	△116,935		548,065
2 短期借入金	2,137,900	958,000	△1,179,900		1,123,900
3 一年以内返済予定 長期借入金	2,328,400	2,085,450	△242,950		2,101,700
4 一年以内償還予定社債	100,000	100,000	—		100,000
5 未払法人税等	21,085	16,393	△4,692		59,289
6 未払費用	352,114	260,385	△91,729		180,199
7 賞与引当金	45,000	30,000	△15,000		80,000
8 その他	226,291	332,802	106,510		314,515
流動負債合計	5,713,702	4,169,006	△1,544,696	△27.0	4,507,669
<b>II 固定負債</b>					
1 社債	100,000	—	△100,000		—
2 長期借入金	3,620,210	1,928,940	△1,691,270		2,630,110
3 預り保証金	301,295	319,569	18,274		328,819
4 その他	70,366	96,832	26,465		116,852
固定負債合計	4,091,871	2,345,341	△1,746,529	△42.7	3,075,782
負債合計	9,805,574	6,514,348	△3,291,225	△33.6	7,583,452
<b>(純資産の部)</b>					
<b>I 株主資本</b>					
1 資本金	863,078	2,363,078	1,500,000		2,363,078
2 資本剰余金	1,271,398	2,771,398	1,500,000		2,771,398
3 利益剰余金	△3,275,492	△4,122,303	△846,810		△4,149,209
4 自己株式	△166,617	△166,624	△6		△166,617
株主資本合計	△1,307,633	845,549	2,153,182	△164.7	818,649
<b>II 評価・換算差額等</b>					
その他の有価証券評価差額金	40,340	37,719	△2,620		36,753
評価・換算差額等合計	40,340	37,719	△2,620	△6.5	36,753
純資産合計	△1,267,293	883,269	2,150,562	△169.7	855,403
負債純資産合計	8,538,280	7,397,617	△1,140,663	△13.4	8,438,855

(2) (要約) 四半期損益計算書

(単位：千円、%)

科 目	前年同四半期 (平成19年3月期 第1四半期)	当四半期 (平成20年3月期 第1四半期)	増 減		(参考) 平成19年3月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
<b>I 売上高</b>	3,472,942	2,864,389	△608,552	△17.5	12,317,370
<b>II 売上原価</b>	1,336,494	1,143,624	△192,870	△14.4	4,731,793
売上総利益	2,136,448	1,720,765	△415,682	△19.5	7,585,577
<b>III 販売費及び一般管理費</b>	2,118,370	1,658,374	△459,995	△21.7	7,716,971
営業利益又は 営業損失(△)	18,077	62,391	44,313	245.1	△131,393
<b>IV 営業外収益</b>	35,289	10,525	△24,764	△70.2	127,799
<b>V 営業外費用</b>	53,608	49,657	△3,950	△7.4	245,032
経常利益又は 経常損失(△)	△241	23,258	23,500	—	△248,627
<b>VI 特別利益</b>	131,904	32,272	△99,632	△75.5	142,117
<b>VII 特別損失</b>	22,492	17,776	△4,715	△21.0	629,286
税引前四半期純利益又は 税引前当期純損失(△)	109,170	37,754	△71,416	△65.4	△735,796
税金費用	13,141	10,848	△2,293	△17.5	41,891
四半期純利益又は 当期純損失(△)	96,029	26,906	△69,123	△72.0	△777,687